

# 脳卒中による肩関節亜脱臼に

# ショルダーリング

リハビリテーション学院  
鈴木明子先生御指導

## 肩関節固定用吊帯 PAT. P. No. 071138

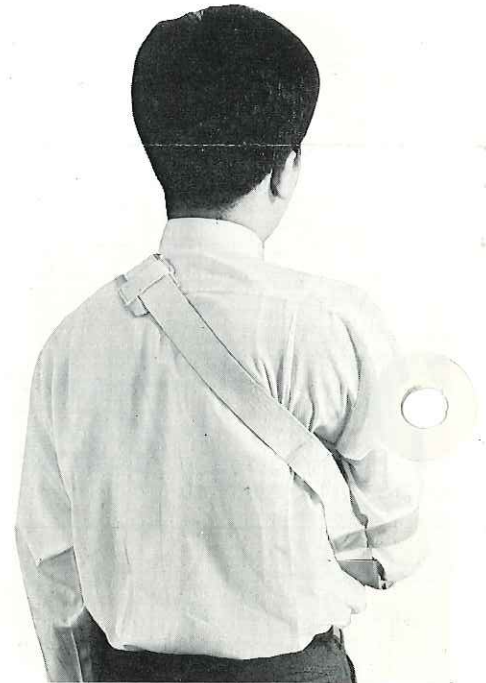


(右用)

脳溢血の後遺症、いわゆる脳卒中患者の殆どは、右又は左半身に著しい機能障害（片マヒ）を起します。この場合肩関節では関節を外側から保持している靭帯・筋肉にマヒが起り関節を支える力が無くなり、肩関節の亜脱臼が起ります。

この状態をそのまま放置すると、亜脱臼のまま筋肉が固まってしまう、機能障害の回復に極めて困難を来すこととなります。

このスリングは従来の三角布による固定法に比べ、多くの優れた点を持つ新しいスリングです。患側の腕を肘から押し上げ、且つ肘関節部分を体側にひきつけ、肩関節を完全に固定し、その上患側には全く負担がかかりません。片マヒ患者のリハビリテーションには欠くことの出来ないものと申せましょう。



(右用背面)

## ショルダーリングにはこんな特長があります

### 1. 関節は無理なく固定され、体の他の部分を動かしても固定はくずれません。

肩関節は吊りバンドが背部で斜め上方に吊り上げる為、肘関節部分で、脇腹に引きつけられます。又、マジックテープ使用により肘関節は関節の上部からも固定され、かつ掌部と肘部とが連結されるので、患側の腕全体が体側に引きつけられる事になり、肘部は全く動きません。勿論、肘固定部はバンドにより引き上げられ、肩関節は肘関節から押し上げられ、正常な状態を保ちます。

### 2. 腕を吊る重量は健側の肩にのみかかり、亜脱臼を起している患側には負担が全くかかりません。

肘を固定し且つ上方に引き上げるバンドは患者の背部から反対側（健側）の方に廻され掌部吊下盤に連結されます。従って患側の肩には如何なる重量もかからず、従来の三角布を使用した場合の様に、折角肩関節を押し上げながら、腕をけん引する重量を亜脱臼を起している肩に重ねて加えるような事はありません。その上、首（頸部）にも重量がかからず、首、又は頭部の運動は自由に行なえます。

### 3. 掌部吊下盤は独特な構造を有し、掌部の循環不良・変形を防ぎます。

掌部吊下盤には4本のスティールが縫い込まれ、又両側端にはスポンジが入っているので極めて自然な状態で掌部を柔かく包みます。

スポンジは最も重量のかかる手首での循環不良を防ぎ、4本のスティールは掌部の変形を防ぎます。又手指の先端は常に手首或いは上膊部より高い位置に保たれ、血液の循環を助け、鬱血を防ぎます。

### 4. どんな体格の患者にも簡単に取り付けられます。

肘固定部と掌部吊下盤は尾錠により長さを調節する事が出来、又筋の固定もマジックテープを使用する事によって、任意の長さ或いは強さに調節し得るので、体格の大小を問わず使用する事が出来ます。



(左用)

発売元 酒井医療販売株式会社



製造元 酒井医療電機株式会社



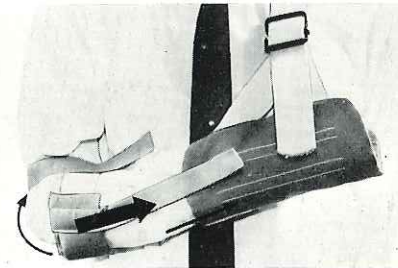
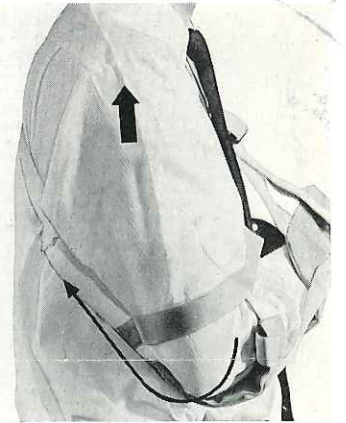
## 肩関節はこうして固定されます

従来の三角布による固定法では、腕を肘関節からもちあげ、骨頭部を正常の高さに保ち、関節の上下の動きをおさえることは比較的容易でしたが、腕全体の左右または前後の動き（つまり骨頭部を軸とする上肢全体の動き）をおさえることは非常に困難でした。

しかし、このスリングを使って肩関節を固定する方法では、写真1のように、肘関節を背部の斜め上方から吊り上げることにより、肘部を体側にひきつけた状態で上腕をもち上げ、骨頭部を正常な位置に保つことができます。しかも写真2のように、肘固定部が掌部吊下げとマジックテープによって連結され、体の前方にも肘部を体側にひきつける力がはたりますから、肘から肩まで十分に固定されます。つまり単に肘関節を押し上げるだけでなく、体の前面と背面の両方から肘を体側にひきつける（しかも両方とも斜め上方にひき上げながら）という完全な固定がおこなわれるわけです。

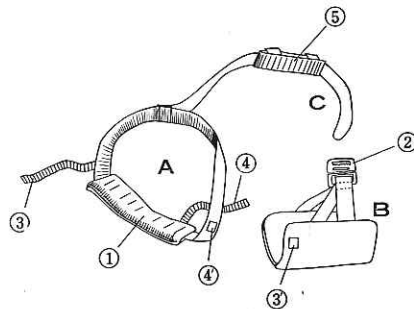
その上三角布の使用では、せつかく押し上げられた関節の上に腕全体を吊り下げる力が加えられてしまうのですが、このスリングでは吊下げベルトは背部を斜めにとおって反対側の肩（つまり健側の肩）にかかり、そこに全ての重量がかけられますから、患側の肩関節には全く負担がかからないという利点をも備えているわけです。

こうしてはじめて他の部分を動かしても肩関節は完全に固定され、亜脱臼の回復をはかりながら、他の機能回復訓練——例えば歩行訓練などもおこなえるようになるのです。



### 使用法

(図及び写真は右用です)



#### A 肘固定部

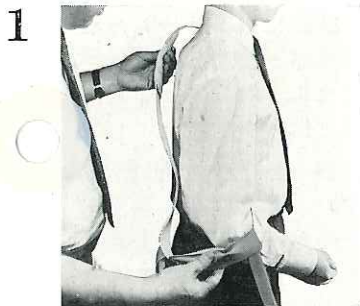
- ①肘あて
- ③マジックテープA（掌部吊下盤連結用）
- ④マジックテープB（肘固定用）
- ⑤B用受布

#### B 掌部吊下盤

- ②尾錠（吊下ベルト連結）
- ③マジックテープA用受布

#### C 吊下ベルト

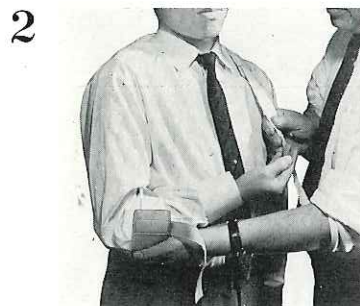
- ⑤肩あて



まず輪状の肘固定部Aに患側の腕を腋下からとおし、ベルトCを健側の肩にまわします。その時肩あて⑤が健側の肩の真上に乗るよう注意してください。



吊下げベルトCの先端に掌部吊下盤Bを②の尾錠で接続します。この場合掌部吊下盤Bは肘よりも少し高くなるように接続してください。その後マジックテープ③を③にひっぱりながらとめます。



吊下げベルトCを右胸前に垂らし、肘を押し上げて肩関節の位置を正しく保てるようベルトCをひっばります。そのさい肘固定部Aの肘あて①が肘の屈曲部に深く入るようになります。



肘固定部Aの外側についているマジックテープ④を肘の外側からまわして④にとめ、肘をしっかり固定し、装着を終わります。

### 御注意

このショルダースリングには右用と左用がありますので、おとめの際には必ずご指定をおねがいたします。

定価 右用・左用とも 1個 1,800円



発売元 **酒井医療販売株式会社**  
 東京都文京区本郷3丁目31番7号 電話 811-1788・3880  
 製造元 **酒井医療電機株式会社**